

CSRセミナー録

2009年度
シンポジウム・セミナー

「次世代 CSR におけるサステナビリティ教育指針」策定までの道のり

ESD 研究センター CSR チーム研究員

阿 部 治

立教大学 ESD研究センター センター長

// 社会学部・大学院異文化コミュニケーション研究科 教授

川 嶋 直

立教大学 ESD研究センター CSRチーム主幹

// 大学院異文化コミュニケーション研究科 特任教授

(財)キープ協会 環境教育事業部 顧問

岡 本 享 二

ブレーメン・コンサルティング(株) 代表

首都大学東京 大学院ビジネススクール 非常勤講師

東北大学 大学院環境科学研究科 非常勤講師

新 谷 大 輔

(株)三井物産戦略研究所 研究員

立教大学 大学院21世紀社会デザイン研究科 兼任講師

中 西 紹 一

(株)プラス・サーキュレーションジャパン 代表

立教大学 大学院21世紀社会デザイン研究科 兼任講師

中 野 民 夫

(株)博報堂 PR戦略局

ワークショップ企画プロデューサー

立教大学 大学院21世紀社会デザイン研究科 兼任講師

福 田 秀 人

サステナブル・マネジメント・リサーチ 代表

大阪産業大学 客員教授

事業戦略アドバイザー



Contents

もくじ

はじめに

シンポジウム（2009年7月12日）
「ESD × CSRを理解する7つの質問」 1

指針作成セミナー（2009年10月4日）
「CSRにおけるESD指針の策定に向けて
－企業版持続可能性教育ガイドラインづくり』① 107

指針作成セミナー（2009年10月18日）
「CSRにおけるESD指針の策定に向けて
－企業版持続可能性教育ガイドラインづくり』② 198

シンポジウム（2010年2月22日）
「次世代CSRにおけるサステナビリティ教育指針」発表 217

研究センター紹介

はじめに

立教大学 ESD 研究センター CSR 主幹 川嶋直

「環境保全」が「持続可能な社会」のベースであることが ISO14000 シリーズの中で強調されたことは記憶に新しく、“サステナビリティ（持続可能性）”という言葉を見かけることも増え、その概念は一般社会にも定着しつつあります。

その背景には、「持続可能な社会」を現実にするためには、環境破壊の問題だけでなく、開発による文化破壊の問題、人権問題やジェンダー問題、貧困問題や平和問題などといった様々な問題を相関的に紐解き、総合的な視点で対応していく必要があるということが、広く理解されるようになってきたということがあります。

これまでの CSR 活動は、環境報告書／サステナビリティレポートの発行、ISO への対応、非営利組織への支援などが主流であり、社員一人ひとりの CSR マインドは、そうした諸活動を通じて育まれることが期待されていました。そのような中で、CSR にさらに血を通わせ、意義深いものに展開させるためには、連関しあう諸問題を総括的かつ主体的にとらえ、より良い解決に導く ESD（持続可能な開発のための教育）的視点が大切になります。しかし、現状では企業活動に ESD が機能しているとは言いきれないようです。

そこで私たちは CSR の現場で ESD を展開させるにあたっての“心得”となるような指針を策定することを目指し、2009 年度から ESD の有効性について紹介するセミナーを数回にわたり開催してまいりました。そして、毎回のセミナー参加者の方々から多くのご示唆をいただき、「次世代 CSR におけるサステナビリティ教育指針～持続可能な社会をめざす企業と企業人のための ESD（持続可能な開発のための教育）ガイドライン～」（第 1 版）を完成させるに至りました。

また、2010年5月に公開した第1版に対してお寄せいただいたご意見をもとに改訂を進め、現在は第1.5版をESD研究センターのホームページ(<http://www.rikkyo.ac.jp/research/laboratory/ESD/program/index.html>)で公開しています。

今後は、本指針を基盤にした人材育成プログラムの開発を目指し、ファシリテーターとして活躍する協力者の参加のもと研究会を重ね、2010年9月13日のプログラム発表にむけて準備を整えてゆきます。

指針は議論の内容を骨子化したのですが、本セミナー録は2009年度に開催したセミナーおよびシンポジウムの記録であり、指針成立までに交わされた学びをかたちにしたものです。お読みいただき、指針の奥行きを感じていただければ幸いです。